
発達理論の学び舎

Back Number: Vol 229

Website: 「[発達理論の学び舎](#)」



目次

- 4561. 個人・集合のバイオフィールドに働きかける音楽
- 4562. 今朝方の夢
- 4563. これまでの学びと今とこれから:短期投資に関するビジョン
- 4564. 『インテグラル理論』の出版から一夜が明けて:出版記念オンラインゼミナールに向けた準備
- 4565. 出版記念オンラインゼミナールの準備:独学と協働学習
- 4566. 新たな始まりを暗示する今朝方の夢
- 4567. 印象的な二つのビジョン
- 4568. 「多福さ」を示す今朝方の夢のシンボルとビジョンの続き
- 4569. 五度圏上の発見
- 4570. 満月の浮かぶ早朝未明に
- 4571. ドリームボディの活性化と今朝方の夢
- 4572. 午後の振り返り
- 4573. 極端なライフスタイルの先にある唯一無二の自分の人生
- 4574. 直接経験から学ぶ投資と作曲
- 4575. 早朝に思う今後の生き方
- 4576. 楽譜という絵画世界からの癒し
- 4577. 不動産購入を通じた欧州永住権について考えさせてくれた仮眠中のビジョン
- 4578. 四度目のフローニンゲンの夏に向かって
- 4579. 今年とこれからの日本旅行について
- 4580. 人間本質及び現代社会に関する理解を深めるための投資・金融

4561. 個人・集合のバイオフィールドに働きかける音楽

時刻は午前6時に近づきつつある。監訳を担当させていただいた書籍『インテグラル理論 多様で複雑な世界を読み解く新次元の成長モデル』が、本日発売開始となった。ちょうど今頃は日本時間の夕方であり、すでに本書を手にとった方たちはどれくらいいるのだろうかと思像する。

今朝のフローニンゲンは、少々雲に覆われている。どうやら午前中いっぱい雨が降るらしい。幸いにも午後からは天気が回復するようなので、午後にジョギングに出かけたいと思う。

今日もまた自分の取り組みに集中する一日としたい。日記の執筆、作曲、そして読書に集中し、それらと並行して、今日は協働プロジェクト関係のアセスメント結果の最終レビューを行う予定だ。

創造活動と学習に従事するというのは、自分のライフワークであり、それらのみに邁進するような日々を送っていききたい。そのためには、自分の時間が何よりも大切であり、自分の時間を生み出すために様々な工夫と心がけをしていく。自分のライフワークに従事し続けることそのものが人生と不可分になるまで、自らの時間を生み出す工夫を徹底し、習慣化していく。

今日はこれから早朝の作曲実践を行う。昨日に読み終えた”Tuning the Human Biofield: Healing with Vibrational Sound Therapy (2014)”を、本日から再読する。本書の内容に触発されて、可能であれば、自分だけではなく、集合的なバイオフィールドに働きかける曲を作っていきたいという思いを持った。日々私が生み出す曲は、間違いなく自分のバイオフィールドに働きかけている。

そもそも一つ一つの曲というものが、バイオフィールドの産物であるという見方もできるため、そうした働きかけが自分のバイオフィールドに起こるとするのは当然のことのように思える。自分が作った曲が集合的なバイオフィールドにどのように働きかけるのか、あるいは、どのようにすれば集合的なバイオフィールドの治癒と変容に働きかけることができるのかを深く探究していきたい。

これから行う早朝の作曲実践では、リスボンのチャド博物館で購入した楽譜を参考にしようと思う。この博物館で購入した楽譜に掲載されている曲には、どれもポルトガルの何かが流れている。それは独特なリズムとなって顕現しており、自分の内側の何かを刺激している。今から作る曲にもそうした何かが体現されることになるだろう。

「一音一会」「一音成仏」の境地に近づいていくために、今日もまた自分にできる範囲の学習と実践を進めていく。フローニンゲン:2019/6/15(土)06:11

No.2069: A Gracious Saturday Afternoon

It is the Saturday afternoon that I can feel gracious. Groningen, 14:11, Saturday, 6/15/2019

4562. 今朝方の夢

時刻は午前11時を迎えた。今、小雨がシトシトと天から垂れてくる音と小鳥の鳴き声の双方が聞こえてくる。

静かな音に溢れた世界の中で、ぼんやりと考え事をしていた。自分の体と真に良好な関係を築けているだろうか、自分の心と真に良好な関係を築けているだろうか、自分の時間と真に良好な関係を築けているだろうか。そのような問いと向き合っていた。

他人やこの世界と向き合う前に、最も身近な存在である自分の身体と心と私は正しく向き合えているのだろうか。自分の時間というものと私は正しく向き合えているのだろうか。これらの問いはとてもシンプルなものでありながらも、シンプルゆえに、普段なかなか意識されないものなのではないかと思う。自分の身体・心・時間と向き合い、それらを何よりも大切にしていくこと。

あえて極端な極に振り、自分の身体・心・時間とより真剣に向き合っていくことをここからしばらくの間意識し、それに関連する実践を進めていく。

今日はまだ今朝方の夢について振り返っていなかった。その振り返りをした後に、バッハのコラールに範を求めて作曲実践をしようと思う。その際には、同主短調からの借用和音を積極的に活用することを試す。頭の中だけで自由自在にそれを行うのはまだまだ難しいため、スキヤフオールディングとして、ノートに五度圏を書き出し、和音の構成音まで書き出す。そうすることによって、借用和音の活用がより楽になるだろう。

今朝方の夢について覚えているのは、まずは高校時代にヨット部に所属していた友人が夢の中に出てきたことだ。さすがヨット部に所属しているだけあって、彼の目撃は非常に目立っていた。そ

の友人と私は、街のフットサルコートのコート脇で立ち話をしていた。すると突然、彼が半ズボンをめくり上げ、ハムストリングを見せながら、その鍛え方について教えてくれた。なにやら、意識の力を使って、鍛錬する部位の細部に集中し、そこを小刻みに動かしていくことが筋力増強につながるらしかった。私もその場で早速それを試してみたところで夢の場面が変わった。

この夢について何か述べる必要があるとするならば、夢に登場したヨット部の友人は、今回初めて私の夢の中に現れたのではないかということである。サッカー部ではなくヨット部に所属していた彼となぜフットサルコートで出会ったのか、そしてなぜハムストリングの鍛え方に関する話になったのか興味深い。

今この文章を書きながら、両足のハムストリングに意識が向かい、夢の中の彼が述べたように、ハムストリングの部位を意識的に動かしている自分がある。夢の中の些細なことを振り返るだけで、それが現実世界の自分の行動に影響を与える点もまた興味深いことである。

その次に見ていた夢の中で私は、溪谷を走る列車の中にいた。車窓からの景色を考えると、それは山口県のどこかの溪谷を走る列車の中だと思われる。私は高校時代の友人(HH)と一緒に数両編成の列車に乗っており、これから彼の故郷に向かうことになっていた。現実世界においては、彼と私が住んでいた場所は同じ市であり、お互いの家には自転車で行けてしまう距離なのだが、夢の中では、列車を使わなければならない距離であった。

溪谷を走る列車からの眺めは素晴らしく、豊かな緑と美しい川を眺めることができた。しばらくすると、友人の家の近くの駅に到着し、私たち二人はそこで降りた。駅の直ぐ近くには公園があり、それは先ほど列車に乗っている時にも目に入っていたものだった。友人と私は公園に行き、そこでひと休憩しようとした。

すると、高校一年生の時には同学年だったが、二年に上がる際に留年をした友人が公園でバスケットを一人で練習していた。彼は野球部に所属していたはずであり、彼がバスケットをしている姿はあまりしっくりこなかったが、私たち三人はバスケットをして遊ぶことにした。その公園にはその他にもサッカーゴールがあるのだが、バスケットのゴールにせよ、サッカーのゴールにせよ、どれもが粗大ゴミで作られたものであった。そうした環境の中でも、私たち三人は何も気にせずバスケットに興じていた。

そこで夢から覚めた。この夢について印象に残っているのは、溪谷を走る列車の車窓から見えた美しい景色である。それは山口県の錦川あたりの景色と似ていると言えるかもしれない。また、そうした景色とは対照的に、粗大ゴミで作られたバスケットリングとサッカーゴールも印象に残っている。この世界はやはり、そうした美醜の対極性を絶えず内包するものであり、同時に美の中には醜が入り込む余地があり、醜の中には美が入り込む余地があるのだと考えさせられる。フローニンゲン:2019/6/15(土)11:45

No.2070: A Cradle after the Rain

I'm seeing passing clouds. I'm embraced by a cradle after the rain here at this moment.

Groningen, 15:36, Saturday, 6/15/2019

4563. これまでの学びと今とこれから:短期投資に関するビジョン

たった今、ハッとさせられることがあった。大学時代に私がなぜ会計と金融を専攻し、最初のキャリアが税に関するものだったのかが、何か一つの線で結ばれるような直感的感覚があった。それらを学んできたこと、及びそれらの領域に関する実務経験を積んできたことは、今、そしてこれから自らのライフワークのみに専心するためだったのではないかと思わされたのである。

確かに会計や税に関して言えば、それは個人を相手にしたものではなく、企業を相手にし、企業会計や国際税務に関するものであった。だが、大学で学んできたこと、及びコンサルティングファームで培ってきた経験というのは、今の自分の生活における会計・金融・税務的側面で極めて大きな支えになっていることに気づかされたのである。とりわけ家計の収支管理や金融資産への投資、及び税金関係の各種手続きに関して、過去に学んできたことが今に活かしている。そしてそれは、これから自分が創造活動に真に打ち込んでいくための不可欠な基盤になっていることに気づかされたのである。

なぜ自分が大学で会計と金融をあれほどまでに熱中して学び、最初のキャリアを国際税務コンサルタントとして始めたのかの理由が今腑に落ちたような感覚がある。すべてはこの日のため、そしてこれからの創造的日々のためであったのだということ。それを知った時、人生には本当に無駄な学びなどないことを思わされる。

先ほどまで降っていた雨が止み、伸びやかさを感じさせてくれる午後の世界が広がっている。確かに今はまだ曇っているが、もしばらくしたら雲が晴れ、気持ち良くジョギングに出かけることができるかもしれない。仮に雲が晴れなくても、あと1時間半か2時間ほどしたら、近所の河川敷にジョギングに出かけ、その足で近所のスーパーに立ち寄りたと思う。

1時間前に仮眠を取っていた時、そこでは一つのビジョンを見ていた。

今日は午前中に二曲ほど曲を作った後に、オランダに拠点を置くヘッジファンドとプライベートバンクについて調べていた。数は多くないが、幾つかのファンドとプライベートバンクを見つけ、今後それらの一つ一つを精査して行こうと思う。そうした調べ物を午前中に行っていたからか、ビジョンの中で私は、短期投資に関するオンラインセミナー講師をしていた。現実世界においては、短期投資というのは私のスタンスではなく、モニター画面に毎日張り付くことに時間を割きたくない自分がいる。

だがビジョンの中の私は、テクニカル分析の種々の理論と手法を熱心に解説していた。セミナー中に、チェコから参加している日本人の受講者の一人が私に質問をした。その方は、東欧諸国の企業の株を購入したいらしく、候補先企業を教えてくれた。私はそれらの企業の財務諸表をざっと読み、ファンダメンタルズ分析を行い、自分の分析をその方に共有した。

すると、その方は私が分析を行っている間に他の受講生と話をしており、投資に全く関係のない話をしていました。それは、その方がオンラインで今参加している家の近所にある遊園地の話だった。二人の受講生が一向に話を止めようとしないので、私は「何の話をしているんですか？」と話に割って入り、セミナーの本題に戻るよう促したところでビジョンから覚めた。

このビジョンも大変興味深く、私が大学時代に行っていた企業価値評価や最初のキャリアで行っていた国際税務リスク分析は、どれも有価証券報告書を用いたものであり、ファンダメンタルズ分析に該当する。私はテクニカル分析よりもファンダメンタルズ分析を好んでいるはずなのに、テクニカル分析に関するセミナーを行っていたのは興味深い。確かに、短期投資においては、もちろんファンダメンタルズ分析の重要性もあるが、それ以上にテクニカル分析をしなければ話にならない側面がある。現実世界における私は短期投資には関心がないのだが、無意識的にはそちらにも関心があ

るということなのだろうか。ビジョンについてぼんやりと振り返っていると、雲が徐々に晴れてきた。フローニンゲン:2019/6/15(土)14:41

No.2071: My Feeling in the Twilight

I'm witnessing my feeling in the twilight, having the peaceful mind. Groningen, 20:55, Saturday, 6/15/2019

4564. 『インテグラル理論』の出版から一夜が明けて:出版記念オンラインゼミナールに向けた準備

時刻は午前5時を迎えた。日曜日のこの時間帯は、いつも以上に平穏であり、早朝が醸し出す幸福さに満ち溢れている。今この瞬間のフローニンゲンの空はライトブルーであり、これから太陽が本格的に昇るに応じて、空の明るさはより増すだろう。

寝室と書斎の窓を開けてみると、いつものように小鳥たちの清らかな鳴き声が聞こえて来る。この清らかな鳴き声を聞けることの幸せを、今噛み締めている。

毎朝毎晩、彼らの鳴き声に耳を傾け、多大なる癒しを得ている。実際には日中にも彼らは鳴き声を上げており、ふとした瞬間に彼らの鳴き声に意識を向けると、そこでもまたくつろぎと治癒がもたらされる。

くつろぎと治癒をもたらす存在がいつもそばにいてくれるということ、そしてそうした存在に意識を向けることができる自己そのものに対する感謝の念が尽きない。

監訳書『インテグラル理論』が出版されて一夜が経った。4冊目となる今回の出版書籍の当日は、随分と落ち着いたものであった。最初の書籍を出版した時には、ちょうど一年間ほど日本に滞在している時であり、それ以降の書籍は全てオランダで生活をしている時に出版したものである。2冊目以降の書籍を出版する頃からは、徐々に落ち着いた精神状態で出版日を迎えることになったが、それは慣れもあるだろうし、日本とオランダで物理的な距離があるということも理由の一つとして挙げることができるだろう。

とにかく余計な干渉や無駄な誘惑から逃れ、平穏な生活の中で自分のライフワークにただ打ち込んでいくこと。それをこれからも継続させていき、そのための仕組みや環境造りを今後はより徹底させていく。特に、人との付き合い方に関しては大きく変えていこうと思う。そのようなことを改めて思う。

昨日は昼前から夕方にかけて少々雨が降っていた。今日は幸いにも一日中晴れのようなのである。昨日雨上がりにジョギングに出かけたのと同じぐらいの時間帯に、今日もジョギングに出かけようと思う。

適切な食習慣と適度な運動が 完全なる習慣となり、それによって日々の生活の質が一変した。そのおかげで、ライフワークに打ち込む自らのエネルギーの絶対量と種類が変化したのを強く実感する。

今日は早朝の作曲実践を十分に行った後に、午前中のうちから出版記念オンラインゼミナールに向けた準備を行いたい。今回のゼミナールでは「反転学習」の考え方を採用し、事前に受講生から書籍の各章に対する質問を受け付け、それに対して音声ファイルを通じて回答し、それを補助教材として共有したい。まずはそもそも、今回のゼミナールではそうした音声ファイルを共有していくことを受講生に伝えるための音声ファイルを作成しようと思う。「自己紹介プロフィール」の書き方に関する音声ファイル、「質問Box」の活用に関する音声ファイルをまずは作成していく。希望としては、今回ご参加いただく多様なバックグラウンドを持った受講生の方々から数多くの質問を受け、充実した量と質の音声ファイルを数多く作り、それを共有していくことである。

昨日の書籍の出版を受けて、『インテグラル理論』という書籍がどのように日本社会に受け入れられるのか、そして出版記念オンラインゼミナールの開始に期待を寄せる。フローニンゲン:2019/6/16 (日)05:18

No.2072: The Pleasant Flow of Time

Today's weather is fine. I'm feeling the pleasant flow of time at this moment. Groningen, 07:04, Sunday, 6/16/2019

意識を落ち着かせ、そして意識を高揚させてくれるような両性質を合わせて持つ小鳥たちの鳴き声が辺りに響き渡っている。とりわけ今の彼らの鳴き声は近くから聞こえて来る。

そういえば、一昨日あたりには、一羽の小鳥が誤って書斎の窓ガラスに激突することがあり、私は小鳥の安否をひどく心配した出来事があったのを思い出した。

小鳥たちがいつもそばにいてくれること。彼らの存在は、私にとって大きな支えになっている。

早朝の作曲実践を行い、今日は遅くとも昼前に、『インテグラル理論』の出版を記念したオンラインゼミナールに向けた準備をしていく。先ほどの日記で書き留めたように、ゼミナールが始まってから本格的に学習を始めるのではなく、ゼミナールが始まる頃には書籍に関する基礎的な理解を得ていただくために、今回のゼミナールでは、音声ファイルを積極的に作成し、それを事前に共有していこうと思う。

一つ一つの章に対して受講生から質問を受け付け、それに対して音声ファイルを通じて回答していく。この音声ファイルによって、実際のクラスの前に基礎的な知識を全員が共有していることによって、当日のクラスの間ではより応用的・実践的な話題や論点を取り上げることができるだろう。そうした「反転学習」の考え方を今回のゼミナールでは採用し、クラスを通じて学びを深めるのみならず、クラスの外でも学びを深められるようにしていきたい。確かに今回の書籍は、インテグラル理論の入門書として位置付けることができるが、そうだとすると、本書を一人で読み解いていくことはそれほど容易ではない。

ちょうど一昨日、事前の音声ファイルの一環として、今回のゼミナールの受講者でもある友人に本書及び本ゼミナールに関するインタビューをしてもらった時に、10年前の自分が本書を一人で読み解いていくことに苦労したという話をしていた。今でも覚えているが、10年前の私にとっては、入門書としての本書が難しく感じられたのである。おそらくそうした経験があったがゆえに今回のゼミナールを開講したのだと思う。もちろん、独学をするというのも一つの学びのあり方であり、事実私は独学を何よりも好んでいるのだが、そうした一人称的な学びのみならず、協働学習という二人称的な学びを行っていくことの意義は計り知れない。

今回のゼミナールでは、まずは受講生の方々に、ある意味独学のような方たちで一度書籍を読んでいただき、そこから生まれてきた質問や疑問点などを事前に教えていただき、それらに対して音声ファイルを作成していく。そして、実際のクラスの場合には、独学ではなく、協働学習の良さが十分に発揮された対話ができると思う。何はともあれ、今日はそうしたゼミナールを運営していくための準備として、早速いくつかの音声ファイルを作成していこう。フローニンゲン:2019/6/16(日)05:35

No.2073: On a Shining Morning

There are no clouds today. This morning is shining. Groningen, 08:13, Sunday, 6/16/2019

4566. 新たな始まりを暗示する今朝方の夢

毎朝の大きな楽しみである早朝の作曲実践の前に、今朝方の夢について振り返っておきたい。夢の中で私は、見知らぬ街のアパレルショップの店の前で、高校時代の友人と立ち話をしていた。

彼は遠くの町から自分が通う高校にやってくる、入学当初はそれほど友達がいないようであった。偶然にも彼と私は放課後の掃除の場所が同じであり、そこで初めて彼と出会ったのを覚えている。彼はサッカーが非常にうまく、のちにうちの高校を辞めて、サッカーの強い他県の高校に編入した。そんな彼と私は、アパレルショップの店の前で、大学受験に関する話をしていた。

どうやら彼は、これから受験勉強を開始し、私大を受験するようだった。彼曰く、今からでは複数の科目を学習するのは難しく、国立大学を受験することは得策ではないとのことであった。彼は文系であり、私立の文系大学を受験するのではあれば、数学はほとんど必要ないのだが、なぜだか彼は私に、数学の問題について質問をしてきた。それは図形と代数に関する問題であり、私が得意とする分野であった。

彼が困っていたのは、原点对称ではなく、原点以外の点を対称にした移動により、元の方程式がどのように変化するかを考えさせる問題であった。正直なところ、それは相当に基礎的な問題であったが、彼の理解がどこで滞っているのかを対話を通じて明らかにしていき、その問題の解き方、いやその個別問題だけではなく、その類似問題に対処できるような原理的な部分についても説明をしていった。すると彼は非常に納得したような表情を浮かべ、私にお礼を述べ、今度は英語の参考

書や問題集について話し始めた。彼は数冊の書籍に絞り、それらを徹底的にやり込んでいく方針を持っているようであり、私もそれに賛同した。

彼が選んだ参考書や問題集も質の良いものであったため、それらを繰り返し活用していくことを私は薦めた。英語の学習方法についても少しばかり話をすると、彼は自宅に戻ってすぐにでも勉強したいと述べ、その場を去っていった。

アパレルショップの店の前で一人になった私は、店のガラス越しに店内を覗いた。すると、店には様々なジーンズが置かれていることに気づいた。よくよく店内を見ると、前職時代の上司がジーンズを熱心に選んでいた。

次の夢の場面で私は、学校の教室にいた。それはおそらく、実際に通っていた中学校の教室だと思う。見慣れない若い女性の教師が教壇に立っており、今から授業が始まるようであった。私は授業開始間際に教室に入り、自分の席がある場所に向かった。私の席は、最前列、教壇の真ん前にあった。

自分の席に到着してみると、なぜだか知らないが、私の机の隅におたふくソースが置かれていた。「いったい誰がこんなものを置いたのだろうか？」と思いながら、私はそれを手に取り、不思議そうに眺めた。そんな私を見て、後ろの席の女性友達(AS)が笑いながら何か一言述べ、教師もまた笑いながら何か一言述べた。

今朝方はそのような二つの夢を見ていた。確か昨日か一昨日の夢の中では、高校時代のヨット部の友人が登場したのを覚えている。その友人と同様に、今朝方の夢に出てきた友人もまた、これまでの夢には一度も登場しなかった友人である。そこからふと、自分の無意識の中で、また何か新しいものが生まれ始めているのではないかと思った。あるいは、ここからの人生において、何か新しいことがまた始まるのではないかという予感がするのである。

夢の中で見慣れない新たなシンボルが登場するということ。ここ数日間においては、それは人の形を伴ったシンボルであった。監訳書の出版をきっかけとして、また何か自分の人生が大きく動き出すことになるかもしれない。フローニンゲン:2019/6/16(日)06:09

It is the afternoon at this moment that I have the decisive mind. Groningen, 14:36, Sunday,
6/16/2019

4567. 印象的な二つのビジョン

時刻は午後の1時を迎えた。日曜日の昼下がり、辺りはとても穏やかである。今日は天気がとても良く、気温も暖かい。「今日外出しなくていつ外出する」というような天気であるため、これから午後の仕事に取り組んだら、気分転換がてら近所の河川敷にジョギングに出かけたい。

つい先ほどまで20分ほど仮眠を取っていたのであるが、とても鮮明なビジョンを二つ見たので忘れないうちに書き留めておきたい。ビジョンの中で私は、日本の新幹線に乗っていた。車窓からの景色から察するに、東京名古屋間を移動しており、もうまもなく名古屋に到着する辺りに私はいた。新幹線の中は混んでおらず、スペースの広さから、自分がいた場所はグリーン車なのかもしれない。

とても快適な時間を車内の中で過ごしていた私は、パソコンを広げて仕事をするわけでもなく、ぼんやりと窓の外を眺めていた。すると、静かな車内の中で、一人の男性が私に話しかけてきた。車内にはその他の人はほとんどいなかったため、そこで話をするのもそれほど問題ないだろうと思い、私はその人と話をすることにした。なにやらその方は、不動産投資を考えているようで、私に助言を求めてきた。

確かに私は大学生の頃に金融を学んだことによって不動産投資に関心を持ったが、依然として不動産投資をまだしたことがなく、自分に助言などできるはずもないと思った。物事は何でもそうであるが、いかなる実践領域も、その領域における直接体験があるかないかが極めて重要であり、書籍をいくら読もうが、直接体験から得られるものを凌ぐことはないのである。

そうしたことから、「私のように不動産投資に関して書籍からしか知識を得ていない者に助言を求めるのは賢明ではない」というような旨の言葉をその方に伝えた。するとその方は残念そうな表情を浮かべ、「そうですか・・・」と一言ぼやき、再び自分の席に戻っていった。そこで私はもう一度窓の外を見た。するとその瞬間に自分の体がワープし、私はバルセロナの街中にいた。

そこに広がっていた光景は、先日訪れたバルセロナの街並みそのままであり、自分が中心部のどの辺りにいるのかをすぐに把握することができた。私は、オーガニックレストランに行き、持ち帰りの大きなサラダを購入しようと思っており、その店に向かってジョギングをしようと思った。一步目を踏み出そうとした時、信号機に捕まってしまう、私はその場で準備運動がてら小刻みに足踏みを続け、信号機が変わるのを待っていた。すると、私の左横に、小柄なスペイン人男性が同じような動きをしながら信号機が変わるのを待っていた。

私たちは簡単に挨拶をし、信号機が変わった瞬間に走り出した。普段私はジョギングをする際に、鼻呼吸が維持できるほどの速度でしか走らないようにしているのだが、その時はなぜか、横にいるスペイン人が仮に自分と同じ方向に走り出したのであれば、必ず彼よりも前で走り続けようと思った。だが繰り返しになるが、できれば私はマインドフルネス瞑想を走りながら行うかのようなペースで走りたいと思っており、そのスペイン人が同じ方向に走り始めることを望んでいなかった。その願いが通じたのか、そのスペイン人は私とは違う方向、具体的には東の方角に向かって走り出し、私は北に向かった走り出した。

ゆっくりと走り出したはずの自分は、なぜだかすでに汗をかきそうになっていた。先ほどはそのような二つのビジョンを見ていた。一つ目のビジョンに関しては、なぜ自分が不動産投資に関する助言を求められたのかはわからない。もし仮に不動産投資をするとしても、私は日本の不動産市場にはあまり関心がなく、海外不動産の方により関心がある。

以前お世話になっていた美容師のロダニムから、オランダの不動産事情について興味深い話を何回か聞いていた。これはオランダに住んだことがある人であれば知っていることかもしれないが、オランダは不動産の価格が毎年微増を続けており、別にキャピタルゲインやインカムゲインをそれほど望んでいなくても、その場所に3年以上住むのであれば、賃貸よりも物件を購入してしまった方が賢明な場合が多いということをロダニムから聞いていた。これはロダニム個人の意見というよりも、オランダの不動産市場を見ていると、確かにそのように思う。とはいえ、今の私はまだ賃貸を続けており、不動産購入や売却の手続きなどを考えてみたときに、やはり賃貸の方が楽なように思う。

やはり私は、居住用の持ち家として不動産を購入することは資産運用上得策ではないと考えており、今後も賃貸を続け、身軽な生活をしていきながらも、投資用としてであれば、不動産を購入するか

もしれないと思う。そのようなことを考えさせてくれるビジョンであった。そして、その次に見たビジョンに関して言えば、もちろんバルセロナの街が舞台として現れたことも興味深いのだが、それ以上に私が関心を持ったのは、私のそばに現れたスペイン人というシンボルの意味と、彼が東に向かった意味、そして私が北に向かった意味である。

最初の意味については不明だが、東に向かうというのは、今の私にとってみれば日本がある方角だ。私は東に向かわずに北に向かったというのは、やはり日本へは帰らないという意味の表れののだろうか。また、自分が力強い足取りで北に向かって行ったというのは、今よりもさらに環境的に厳しい地域に向かっていこうとする自分の姿を暗示しているのかもしれない。もちろんここでは、単純に北欧に住むというようなことを意味していない。意味しているのは、精神的により厳しい環境という意味である。それは今住んでいるフローニンゲンの中でも作り出すことができる。

厳密に言えば、それは厳しい環境というよりも、自分にとって必要不可欠な静かな環境のことを指しているようにも思える。他者や社会との無駄な接点を可能限り削ぎ落とし、北の極致にあるような、落ち着きのある孤高な環境の中で自分のライフワークに打ち込みたいという今の思いを代弁しているかのようなビジョンであった。フローニンゲン:2019/6/16(日)13:46

No.2075: A Flash in the Twilight

The evening twilight time came. Now today is approaching the end. Groningen, 19:39, Sunday, 6/16/2019

4568. 「多福さ」を示す今朝方の夢のシンボルとビジョンの続き

午後の2時を迎えても、早朝と同じように小鳥たちがチュンチュンとした鳴き声を上げている。彼らの鳴き声は、どの時間帯にあっても私を心からくつろがせてくれる。

絶えず癒しのある環境の中で自らの取り組みに従事できていることほどに有り難いことはない。私がオランダのフローニンゲンにしばらく落ち着くことに決めたのも、こうしたことに理由がある。

そういえば今朝方は、おたふくソースが自分の机の上に置かれている夢を見ていた。おたふくソースという奇妙なシンボルが暗示していることは何なのだろうか？私はこの数年間ソースを使ったこと

がないように思う。少なくともオランダの自宅でソースを口にしたことはない。そうしたことから、ソースが何を表しているのかを探っていくよりも、「おたふく」が何を象徴しているのかを考えていく方が得策かもしれない。そのようなことを考えていると、今、「おたふく」という言葉が「お多福」という形に変換されそうになった。

これは誤変換なのか定かではないが、確かに今の私は有り難いことに、毎日が多福な状態にあると言える。あの一本のソースが暗示していたことはそれなのだろうか。いずれにせよ、今の自分が日々感じている多福さには本当に感謝しなければならない。そこには、一つ一つの福を呼び込むものが必ず存在しているのだから、そうした福をもたらしてくれる一つ一つの存在に感謝の念を捧げて日々を生きていこうと思う。

先ほどは、午後の仮眠の際に知覚していた二つのビジョンについて書き留めていた。実際には、最後にもう一つ印象に残るビジョンを見ていたことを思い出した。最後のビジョンの中で私は、フローニンゲン郊外の道端を自転車を押しながら歩いていた。それは別に自転車が故障したからではなく、歩きたい気分だったのでそのようにしていただけである。

しばらく歩くと、前方に、二人の大柄なオランダ人女性の姿が目に入った。一人の女性は白っぽい愛猫を抱きかかえており、もう一人の女性はベビーカーを押しており、二人は何やら楽しげに話していた。私の歩く速度の方が早かったため、私は二人に追いついた。すると二人はその場で立ち止まり、私に話しかけてきた。

おそらく私の外見から察してか、二人はオランダ語ではなく、すぐに英語を話し始め、そこで私たちは立ち話を始めた。立ち話を始めた途端、飼い主に抱きかかえられていた猫が私の自転車のカゴに突然噛み付いた。その猫の歯は、どこか獰猛なヘビが持っているような鋭い牙のように見え、私は恐ろしくなった。なぜだか私の洋服が自転車のカゴに引っかかっており、猫は私の服ごとカゴにかじりついていた。

何をどうやっても猫をカゴから離すことができず私はお手上げ状態になり、飼い主に何とかしてもらうようお願いした。そのお願いをする際に、仮にカゴから猫を離すことができなければ、猫の歯を

ペンチか何かで思いっきり抜いてやろうと私は考えていた。その考えが芽生えた時に、ビジョンから覚めた。

最後のビジョンに関して言えば、やはり猫の凶暴な姿が印象に残っている。あのような鋭い歯で噛まれてしまっただけではひとたまりもないと今思い返してみても思う。最後の場面において、私がペンチを使ってでも猫をカゴから引き離そうとした背後には、どこか自分の奥底の攻撃性が見えるように思う。

フローニンゲン:2019/6/16(日)14:14

No.2076: A Feeling before Daybreak

I realized that a new day began as soon as it was daylight. Groningen, 05:09, Monday, 6/17/2019

4569. 五度圏上の発見

夕暮れ時を迎えた。日曜日が静かに終わりに向かっている。今日もまた非常に充実した一日であった。確か今朝の起床時間はゆったりとしており、4時半あたりに起床したのではなかったかと思う。そこから午後の8時を迎えるまでの時間、自分の種々のライフワークを少しずつ前に進めていた。

今日の前に見えるフローニンゲンの夕暮れ空は、そうした自分へのご褒美なのかもしれない。こうした美を眺められること、そしてそうした余裕が自分の中にあるということが何よりも有り難い。

今日はもう一曲ほど曲を作りたい気分なので、就寝前の最後の一曲を後ほど作りたい。作曲が終わり次第、そこから就寝に向けてゆったりとする。

そういえば、今朝方の夢の中で、バッハの音楽の素晴らしさに触れていたのを思い出した。夢の中で現れていたのはバッハのどの曲か定かではないが、その曲の中の転調が見事であった。それは非常に滑らかな転調であり、色彩的なグラデーションがかかった音色を持っていた。夢の中で私は、バッハのその曲を聴きながら恍惚的な感覚に陥り、その後、ベートーヴェンの曲について考えていた。すると夢の中の私の脳内でベートーヴェンのピアノソナタが鳴り響き、その曲が持つ交響乐的な巨大な音楽的建築物に私は思わず息を呑んだ。先ほどのバッハの美とはまったく異質の美がそこにあった。そのような夢を見ていたことを、夕暮れどきの今思い出した。夢の中の自分が感じてい

たように、バッハの音楽とベートーヴェンの音楽の双方に偉大さがあり、巨大な美の伽藍が存在しているように思う。

昨日はベートーヴェンのピアノソナタ全集を最初から最後まで聴いていたのだが、その時の印象を思い出してみると、やはり夢の中の自分が感じていたように、そこには交響乐的なスケールの大きさがあつたように思う。ベートーヴェンのピアノソナタを参考にして曲を作る日はまだまだ遠い。

今日の早朝の作曲実践では、裏コードと平行調を活用した借用コードを積極的に活用していた。改めてそれら二つの手法について手を動かしながら考えていると、裏コードの活用においては、ある調の五度圏上の対角線にある調のドミナントコードを活用するために、二つの調の関係は五度圏上において180度関係をなしていることに気づいた。一方、平行調を活用した借用コードの活用においては、五度圏上の90度関係にある調を選択することになることにふと気づいた。それぞれの手法を用いるために、ノートに五度圏の円を描いているとそれに気づくことができたのである。

このように図形的に二つの手法を理解すると、今後の活用がよりスムーズになり、また何か新しい発見にもつながるのではないかと思う。今後も手を動かしながら、作曲ノートに様々なことを書き出しながら作曲実践を継続させていこうと思う。フローニンゲン:2019/6/16(日)20:02

No.2077: Drifting

I feel that I'm drifting above the morning world. Groningen, 06:55, Monday, 6/17/2019

4570. 満月の浮かぶ早朝未明に

今朝は午前2時半に起床した。目覚めの状態はとても良く、目を開けた瞬間から、今日一日の充実度合いを押し量ることができた。

現在は午前3時を過ぎ、空には満月が浮かんでいる。その光は淡く、それでいてこの時間帯の空においてはひととき強い存在感を放っている。

昨夜、嬉しい訪問者が現れた。昨夜の就寝前に、寝室の窓を閉めようと思ったところ、窓の反対側のへりに一羽のハトが休んでいた。最初それに気づいた時、私はハトを驚かせないように、その場に立ち止まった。そして、そこからハトの様子を眺めていた。

ハトは一向に動こうともせず、ずっとじっとしていた。そこで私は、ゆっくりと窓辺に近づいていき、ハトの様子を近くから観察してみることにした。窓ガラスを隔てて本当に至近距離まで近寄ったのだが、ハトは一向に逃げることもせず、その場でじっとし続けていた。ハトの表情は可愛らしく、毛並みは美しかった。実際に毛の一部はピンクゴールドに輝いており、この生き物がそうした美しい色を持つ毛を携えていることに驚いたし、仮に人間が地毛でピンクゴールドのような色を持っていたとしたら・・・と想像してみると、幾分おかしくもあった。ハトは目をパチクリさせながらも、窓のへりでじっとし続けていたので、私はそっとしておくことにした。そして、今朝2時半に起床してみると、ハトはまだそこにいたのである。

外が暗いため、ハトが寝ているのか定かではなかったが、あのハトは一体何をしているのか気になる場所である。外が明るくなったら、再びハトの様子を観察したいと思う。

今日から早くも、6月の第3週目を迎えた。カレンダーを確認すると、ちょうど来週の月曜日からモスクワ旅行が始まる。

モスクワ旅行の計画を立て、ホテルや航空券の予約をしてから、気づけばあっという間に旅の出発日が近づいている。日々充実した毎日を送っていると、時の流れが速く感じられるのだろうか。時の流れの中にいるときにはその流れの速さに気付けないのだが、流れ去った時を改めて冷静に見つめてみると、随分と時が経っていたのだと知る。いずれにせよ、来週から始まるモスクワ旅行は実に楽しみだ。

EU圏外に行くのは日本への一時帰国を除き、一昨年の夏にノルウェーに訪れて以来となる。昨日少しばかり考えていたが、8月の旅行に関しては、もしかしたらヴェネツィアに行かないかもしれない。水の都ヴェネツィアに訪れたいのは山々だが、協働プロジェクトの兼ね合いから、ひょっとすると8月の中旬の時期はフローニンゲンに残っておいた方がいいのかもしれないと思う。8月中旬まではまだ時間があるので、プロジェクトの動向を見ながら最終的な判断を下したいと思う。

フローニンゲンの早朝未明の空に浮かぶ満月を見ながら、一昨日に出版された『インテグラル理論』の様子について想いを馳せる。書籍が出版されてからまだ時間が経っていないため、どのような状況か全くわかっていないのだが、多くの方に読んでいただけることを願う自分がある。今朝もとても静かだ。フローニンゲン:2019/6/17(月)03:38

No.2078: A Morning Song from Somewhere

Songs are omnipresent in this reality. They are for me and others. Groningen, 08:16, Monday, 6/17/2019

4571. ドリームボディの活性化と今朝方の夢

今日もまた日記の執筆、作曲実践、読書、そして協働プロジェクトに関する取り組みに打ち込んでいこうと思う。特に、今日は昼前に1件ほど協働プロジェクト関係の仕事があり、それはこれから1年弱にわたって続くものである。ちょうど今日からその案件がスタートするため、始まりへの期待感が募る。

これから行う本日最初の作曲実践では、バッハの4声のコラールを参考にしようと思う。その際には昨日と同様に、裏コードの適用と、同主短調の借用コードを適用していく。ここ最近はそれら二つの手法を意識していたためか、徐々にそれらの適用になれてきた自分がある。もう暫くそれらを意識的に活用し、意識せずとも活用できる段階にまで持っていきたいと思う。

時刻は3時半を過ぎ、今、小鳥たちが少しずつ鳴き声を上げ始めた。ピアノ曲を流すことを一旦止めて、小鳥たちの清澄な鳴き声に耳を傾けることにした。ここから暫くは、小鳥たちの鳴き声のシャワーを浴びながら、黙想的な状態で自分の取り組みに取り掛かる。数日前に改めて気づいたが、今の私にとっては、一つの日記は20分から25分ぐらいの時間をかけ、一つの曲は40分から45分ぐらいで作るのが最も望ましいようだ。

もちろん、それらの時間は厳密なものではなく、あくまでも概算値であるが、概ねそれぐらいの時間で集中して文章を書いたり、曲を作ったりした方が私にとっては良いようだ。短い時間集中して小さな形を生み出していくこと。今日もそれに専心していく。

早朝の作曲実践に入る前に、今朝方の夢について振り返っておきたい。今朝方の夢においては、なぜか私の身体はヴァイタリティーに満ち溢れており、極めて濃密な身体エネルギーを持っていた。夢の中の私は一言、「マカの力」とつぶやいていた。ここどころ継続して、夜の味噌汁の中にマカパウダーを入れていたり、昼に具なしの味噌汁を飲むことがあれば、その時にもマカパウダーを入れている。

マカを摂取することが継続していたからなのか、夢の中の私の身体は、その効能を実感しているようだった。夢の中の身体、つまりドリームボディが活性化しており、身体の外側を覆うサトルボディが拡張されているような感覚があった。それでは具体的にどのような夢を見ていたのかというと、ドリームボディが活性化されている時においては、何ら視覚的なものは見ていなかったように思う。ただし、その前には視覚的なイメージとして立ち現れている夢があった。

夢の中で私は、ある日本人の著名な投資家と会話をしていた。その方と話をしていた内容は、もちろん投資に関するものであり、お互いの投資哲学と投資手法について意見交換をしていた。実際のところは、私には投資哲学と呼ばれるようなたいそうなものはなく、投資手法に関しても何ら洗練されたものではないため、もっぱらその方の話を聞くことにしていた。その方の話を聞くことに徹していたからか、その投資家の方は随分と気分良さげに色々なことを私に教えてくれた。最後には相当に意気投合し、また別の機会にゆっくりと投資に関する話をしようということになった。そこで夢の場面が変わった。

ここ最近、夢の中にせよ、午後の仮眠中のビジョンの中にせよ、投資に関するものが頻繁に現れるようになった。それは顕在意識化の私が投資について学習したり調査をしたり、そして実際にそれを行う度合いを増やしているからだろう。今年と来年は、特に投資の学習と実践に焦点を当てていく。投資に関する学習と実践もまた一生継続していくものなのだと思うが、特に今年と来年は、一気呵成にその学習と実践に力を入れる時期だと思う。フローニンゲン:2019/6/17(月)03:56

No.2079: A Tender Heart

The early morning always has a tender heart. Groningen, 09:51, Monday, 6/17/2019

4572. 午後の振り返り

時刻は午後の3時を迎えた。今日は昼前から昼過ぎにかけて、協働プロジェクトの案件に関する仕事の従事していた。それに2時間半ほどの時間を充て、その後、街の中心部のオーガニックスーパーに足を運んだ。今日は初夏を思わせる暖かさであり、半袖で走るのが大変心地良かった。

相変わらず、フローニンゲンの中心部は平穏であり、それでいて陽気さが漂っていた。スーパーに向かうまでの道中はジョギングをしており、それは大変良い気分転換となった。何か集中的に仕事をした後は体を動かすに限るということを改めて学んだように思う。

つい先ほどまで仮眠を取っていたのだが、今日はそれほど鮮明なビジョンを見ていなかった。その代わり、いつもより多く30分ほどの仮眠を取っていた。未だいかなる要因によってビジョンが発生するのか定かではないため、この点について観察と考察を続けていこうと思う。

今日はこれからゆったりとした気持ちで作曲実践を行う。ちょうど窓の外に広がる穏やかな世界のよように、落ち着いた気持ちで作曲実践に従事したい。繰り返しになるが、創造活動に従事したいと思った時に、その活動に従事したいだけ従事すればいいのであって、決して創造活動を義務化してはならない。常に初心を忘れず、常に活動に没入し、活動から絶えず何らかの楽しみや喜びを見出していくこと。そうした精神を持ちながら、今後の創造活動に従事していく。

来週から始まるロシア旅行、再来週の金曜日から始まるオンラインゼミナール、そして幾つかの協働プロジェクトなど、これから少しばかり多忙な日々が続くかもしれないが、創造活動に従事する時間を絶えず確保するようにしていく。その時間を最優先に確保するために、自分の時間を奪う人や事柄には一切関与しないようにしていく。今後もそうした心がけをしていくことになるだろう。

直感的に思うが、やはり今年と来年は、自分にとって大きな変化を迎える年なのだと思う。それは自分自身の内側の変容のみならず、端的にはライフスタイルの変化として如実に現れてくるだろう。もうこれまでのような生活の仕方をしない。自らの役割を最大限に全うするための最善のライフスタイルに則ってこれから生きて行く。自分が決めたルールは徹底的に守り、最善のライフスタイルの維持・促進に努めていく。そのようなことを思わせてくれる午後だ。フローニンゲン:2019/6/17(月)

15:19

I'm feeling the pulsation in my body in the evening. Groningen, 16:58, Monday, 6/17/2019

4573. 極端なライフスタイルの先にある唯一無二の自分の人生

時刻は午後の8時半に近づきつつある。今朝は早朝の2時半に起床し、そこから今の時間帯まで、実に充実した時間を過ごすことができていた。今日は気温も暖かく、そしてそよ風も吹いていたため、午後に街の中心部のスーパーに足を運んだ際にはとても気持ちが良かった。スーパーから帰ってきて仮眠を取り、ひと休憩してから、現在投資中の銘柄に対して追加投資を行った。この投資対象には数カ月間をかけて何度か追加投資を続けてきたのだが、今日の追加投資を境目に、今後は余程のことがない限り追加投資をすることはないだろう。あとはこの投資対象の成長を静かに見守っていただけである。まさに静観という言葉がふさわしいだろう。

この一年間は、この投資対象を含めて、投資ポートフォリオ内の対象銘柄の様子を定期的に確認しており、今日追加投資を行った銘柄は、この一年間特に意識して見守ってきたものである。実際に、タイミングを見計らって、これまで10回近く追加投資を行ってきたように思う。

立案した投資計画に基づいて最適なタイミングで追加の投資を行うために、対象銘柄の値動きを数日間は集中的に観察することが要求されていたのだが、私は専門の投資家では決してなく——特に短期投資を専門とする人間ではない——、日々の値動きを確認することは自分の貴重な時間を無駄にするものの一つである思っている節もあるため、今日をもってそうしたことから解放されたことは喜ばしい。あとは計画通りに、売却タイミングまで静観をする。

以前の日記で言及していたように、今年と来年からはライフスタイルを大きく変え、働き方もさらに大きく変えていく。理想としては、労働収入をゼロにすることができればと思う。たいていの場合、労働収入をいかに極大化するかに人々は関心を示しているが、私の人生は労働に捧げるためにあるわけでは決してなく、自らのライフワークに捧げるためにあるため、そうした一般的な働き方をすることを選ばない。この5年間継続して種をまき続けてきたものに対してさらに水と養分を与えることに焦点を当て、労働収入を低減させていきながら、権利収入・利息収入・配当収入を十分なものにしていく。

数日前の日記で書き留めたように、自分が大学時代に会計と金融にのめり込んでいたのは、この日のためだったのだ。一銭にもならず、一銭とも交換するつもりのない自らのライフワークにひたすらに毎日打ち込む生活を実現させる基盤を構築するためだったのだ。人生の大きなつながりに改めて驚きと感銘を受ける。

とにかく自分のライフワークに邁進する日々を送っていく。今後は徹底して自分の時間を大切にすると決めたため、これからは現在進行中の仕事や既存の契約に関するメール以外には基本的に返信しないようにする。家族や親友からのメールだけには返信するようにして、あとはもう返信をしないようにしていく。とにかく人付き合いというものを見直していき、馴れ合いの人付き合いは断ち切っていく。

たいていの場合人は、安易にメールというものを送りすぎなのであり、それに対して返信がなくても実はそれほど困りはしないのだ。自分の人生が無駄な人付き合いをするためにあるのならば、メールを使い続けられればいい。そうでないのであれば、メールを使わないことが賢明だ。

人付き合いに疲弊するような馬鹿げた人生を歩むのではなく、自らのライフワークにひたすらに打ち込むだけの人生を歩む。家族や親友以外の人とは、この世界のどこかで偶然に再会した時に話をすればいいのである。そんな発想がもたげてくる。

今年と来年にかけて、とにかくライフスタイルを極端なものにしていこうと思う。そうした極端さの先に、唯一無二の自分の人生が存在するように思える。フローニンゲン:2019/6/17(月)20:42

No.2081: A Word of Awakening

I got up at 3:30 AM today. I'll start my creative activities from now. Groningen, 05:08, Tuesday, 6/18/2019

4574. 直接経験から学ぶ投資と作曲

小鳥たちの鳴き声が活発になり始める午前4時。今朝は3時半に起床し、4時を迎えるあたりから一日の活動を本格的に始めた。2時半から4時までの間に起床することが完全に板につき、日中の自

分の活動に充てる時間が拡張されたことによって、日々の充実感がさらに増しているように思う。今日もこれから夕食後までの時間にかけて、有意義な時間を思う存分過ごすことができるだろう。

今朝方は珍しく、記憶に残る夢を見ていなかったように思う。とはいえ何かしらの夢が通り抜けて行った感覚があり、実際に、その通り抜けて行った夢にハッとさせられる形で今朝は目覚めた。ただし、その内容がどうにも思い出せないのである。夢の外形だけをなぞれば、ここ最近よく主題として立ち現れている投資に関するものではなかったかと思う。

昨日か一昨日の午後の仮眠中のビジョンで現れていた日本人の著名な投資家の方が現れ、二人で投資について意見交換をしていたように思う。

この時間帯の小鳥たちの鳴き声は本当に美しく、心が洗われる感じがする。今この瞬間においては、それはどんなピアノ曲よりも美しく、そして私の心を深く癒してくれる。ここからしばらくの間は彼らの鳴き声に包まれる形で自分の取り組みに従事していきたいと思う。

今日はこれから、早速ではあるが、早朝の作曲実践を行う。作曲の理論書から学びを得ることも確かに大事であるが、兎にも角にも実際の楽譜と向き合い、実際に曲を作っていくという実践から学んでいくことが大切であることを再度確認する。

実践という直接体験をどのようにどれほど積んでいくか。内省的に経験を積み重ねていくことが何よりも技術の涵養を促してくれる。このあたりはどこか投資と似ているかもしれない。投資には短期投資や長期投資などの分類のみならず、投資対象なども多岐にわたっているが、投資というのも一つの知性領域・能力領域であることに変わりはなく、それにおいてもいかに実践を積んでいくかが重要になる。

たいていの場合、実績のある投資家は何か理論書に頼るというよりも、投資対象及び相場と向き合い、実際の経験から多くの学びを得ている点は注目に値する。それを自分自身の作曲実践に当てはめてみると、おそらく最大の学びは楽譜の中にあり、実際の作曲実践の中にあるのだと思う。

とにかく今日も、様々な楽譜と向き合い、実際の作曲経験を積んでいくことを通じて、視覚的な絵として良いメロディー、良いハーモニーのパターンを身体感覚で捉えていく。過去の偉大な作曲家も、

確かに基礎的な事柄を勉強していながらも、過度に理論書を読むことなどほとんどなかったはずである。彼らもまた先人が残した良い楽譜から学び、生きた事例から曲の創造に伴うパターンを学び、自ら新たなパターンを生み出していったのだろう。そして、それが彼らの作曲語法となっていった。

今日の一連の作曲実践を通じて、曲を創造するための種々のパターンを絵画的に把握していき、それらを体で覚えていきたいと思う。フローニンゲン:2019/6/18(火)04:28

No.2082: A Drop in the Early Morning

I'm savoring a feeling of a drop in the early morning. Groningen, 05:58, Tuesday, 6/18/2019

4575. 早朝に思う今後の生き方

時刻は6時半を過ぎ、すっかりと日が昇った。辺りには早朝の穏やかさが漂っており、今、早朝の清らかさの大海から滲み出すしずくを味わっている。一昨日は2時半に起床し、今朝は3時半の起床であり、一昨日に比べれば一時間ほど遅く起床したが、早朝からこれまでのところ、すでに二曲ほど短い曲を作ることができた。

大曲ではなく、詩のような短い曲を淡々と水の流れのごとく生み出していくこと。それを絶えず心がけていく。絶えず音楽宇宙の中に自己を浸しておいて、そこから生み出されていく音を形にしている。自分はそうした媒介者にすぎない。

昨日に引き続き、今日もまた天気が良いようだ。そのため、午後の活動がひと段落した夕方あたりにジョギングに出かけたい。そして、その足で近所のスーパーに立ち寄る。

気がつけばモスクワ旅行が迫ってきており、ここからは買い物の量に気をつけなければならない。モスクワに向けて出発するのは六日後なので、そこから逆算する形で食料を補給していく。今日はとりあえず、リンゴ、バナナ、玉ねぎ、じゃがいも、さつまいもを購入しようと思う。

今日もまた午前中に一件のオンラインミーティングがあるが、それ以外の時間は全て自分の創造活動や読書に充てることができる。昨日の日記で言及したように、ここからは自らのライフスタイルを極

端なものにしていく。極端さの先にある唯一無二の自らの生き方というものを確立していく。特に自分の時間をいかに大切にするか、いかに人と付き合わないかということに焦点を当てていく。

パリに渡る前に、小説家の辻邦生先生は広告会社に勤めていた。そこから一念発起をし、会社を辞めてパリに渡り、小説の探究を始め、以後生涯にわたって小説を書き続けた辻先生の姿が脳裏に浮かぶ。ちょうど自分が活動領域を大きく変えていこうと思っていたところ、辻先生の姿が思い浮かんだのは何かの偶然か、あるいは偶然を超えた何ものかであるようにも思える。

辻先生が残した日記をこれからもゆっくりと読み返していこうと思う。そこに自分固有の唯一無二の生き方を確立するヒントがあり、創造活動に一生涯従事するためのヒントがあるように思える。

朝日が赤レンガの家々の屋根に当たり、淡い光を発している。また、朝日は青々と茂った街路樹を優しく包んでいる。今日もまた本当に穏やかな表情を見せてくれるフローニンゲンの朝である。こうした落ち着いた環境の中で、儉素な生活を営みながら自分の創造活動に打ち込んでいく。

人に時間をすぐに奪われてしまうような大都市では金輪際生活をしない。また、馴れ合いの人間関係をすぐに生み出そうとする日本社会ではもう生活をしない。それらは何年も前に決めたことであるが、今日もまた改めてそのようなことを思う。

時間泥棒と馴れ合いの人間関係からとにかく離れた形で自分の生活を形作っていくこと。それができなければ、自らに与えられた役割を全うすることはできないだろう。改めて今後の生き方を考えさせてくれるのも、こうした平穏な生活環境がここにあるからだろう。フローニンゲン:2019/6/18(火)

07:00

No.2083: Beckoning from the Other World

Beckoning from the other world became a piece of music. Groningen, 08:12, Tuesday, 6/18/2019

4576. 楽譜という絵画世界からの癒し

時刻は午前9時に近づきつつある。小鳥の鳴き声に聞き入るか、バッハの音楽に聞き入るかを選べなかつたため、贅沢にもそのどちらにも聞き入ることにした。極上の自然美と人工美が交差する音

楽空間に浸りながら、今日もまた自分の人生が緩やかにどこかに向かって進んで行く。まさに、先ほど彼岸からの手招きがあったように、その世界に向かって進行していくこの人生を十二分に日々生きて行く。私にできることはそれしかない。本当にそれしかない。

今日は午前3時半に起床し、そこから日記を少々執筆したり、作曲実践をしたり、少しばかり読書をしていた。とにかく今は読書というのは単なる気晴らし程度のものであって、真剣に書物と向き合うことはしない。本居宣長が一時書物から離れたのと同じように、私もしばらくは書物の世界から離れていく。とにかく今は、書いて書いて書くというところを行っていく。日記と曲をひたすらに四六時中書き続けていくことを行う。

今朝方最初の作曲実践をしている最中に、ひよっとすると私は、楽譜を眺めているだけで癒しを得ているのではないかと思った。楽譜を眺めると妙に心が落ち着き、そして精神的な高揚感を味わうのは、何か治癒的な作用が楽譜を眺めることの中にあるからではないか。

毎回楽譜のページを開くたびに、そこにどのような音楽世界が広がっているのかを楽しみにしている自分がある。同時に、そうした音楽世界と自分がどのように交差・交感し、そこからどのような音楽を自分が生み出すのかをいつも非常に楽しみにしている自分がある。未知との遭遇に絶えず心を躍らせているような純粹無垢な存在をそこに見る。

午前9時を迎えようとしているこの時間帯に、早くも本日4回目の作曲実践に取りかかろうと思う。本当に、曲を作ることがいつも楽しくて仕方ない。生み出された曲のできなど知ったことではない。自分にとっては、それは全く重要性を持っておらず、曲を作るという行為そのものに没入することによって、自らの人生の根源と繋がりながら連続する今という瞬間を生きることが大切なのだ。

これから参考にするのは、以前フローニンゲン郊外の楽譜屋で購入した、オランダ人の作曲家 Jacobo Palm の楽譜である。彼の楽譜を眺める際にも、あたかも絵画作品を鑑賞するかのようにそこで顕現されている音楽・絵画世界を楽しむ。ここから一曲作った後に、ちょうどオンラインミーティングの時間になるだろうか。

今日も創造に次ぐ創造の一日になるだろう。なぜなら、この世界には創造しかないのであり、自己もまた絶えなまい創造の産物なのだから。フローニンゲン:2019/6/18(火)09:00

I'm enjoying a morning festival at this moment. I hope I'll be able to spend the same kind of time in the afternoon, too. Groningen, 09:42, Tuesday, 6/18/2019

4577. 不動産購入を通じた欧州永住権について考えさせてくれた仮眠中のビジョン

時刻は午後の1時半を迎えた。これから再び作曲実践に集中して、その後、気分転換に近所の河川敷にジョギングに出かけようと思う。その足でスーパーに立ち寄り、必要な食料を購入する。その際に、来週からのロシア旅行を考慮して食料を購入したいと思う。

つい今しがた仮眠から目覚めた。仮眠の最中に幾つか興味深いビジョンを見ており、目を覚ます直前までそれらについて鮮明に覚えていたのだが、今はぼんやりとしたイメージとしか覚えていない。覚えている範囲のことを書き出すと、私はヨーロッパのある国の街にいて、そこで不動産投資用の物件を吟味していた。厳密には、その街を散策し、不動産屋を何件か回りながら、投資対象の良い物件がないかを探していたのである。

ビジョンの中の私はその街を気に入っていたため、その国で不動産を取得しようとしていたこともうなづけるのだが、どうやら私の狙いは別のところにあり、その国で一定金額以上の不動産を購入することによって、その国の永住権を取得することにあるようだった。例えば、日本円で換算するとおよそ5,000万円かそれ以上の不動産を購入すれば、スペインやポルトガルでは永住権を取得することができてしまう。この二国のうち、ポルトガルの方が金額条件が少し低い。オランダにおいては、不動産投資によって永住権は原則的には発行されていないようであり、事業や企業などに投資する必要がある。その他、例えばハンガリーなどはEU諸国の中で一番永住権が取得しやすく、日本円で3,000万円ほどの国債購入によって永住権の申請ができてしまう。

そのような事前知識を持ちながら、ビジョンの中の私はその街を歩いていた。その国で不動産投資用の不動産を購入しようと思ったのは、もちろん私が欧州という地域で落ち着いた生活を送ることができると考えているからであり、同時に欧州永住権をひとたび取得してしまえば、EU加盟国内での居住が自由になり、その時々自分に最も合致した国で生活を営めるという利便性があるからであった。その他にも、一国でしか生活できないことに伴うリスク、その国の政治経済的さらには地政学的

なりリスクを考えてみたときにも、欧州永住権を取得することは自分にとって魅力的であり、それは今後の自分の人生において必要なものだと考えていた。

このビジョンの中で私は、なぜだか小中学校時代の友人(YU)と、欧州国内における不動産投資について話をしていた。彼は私の親友の中で最も投資能力が高く、随分と前から株式投資をしているようであり、現実世界の彼が不動産投資に関心を持っているのかは定かではないが、彼であれば不動産投資を行ってもきつうまくいくであろうと思われる。

投資というのも一つの能力領域・知性領域であり、彼は高卒だが、本当に学歴など関係なく、その領域の学習をするかどうか、そしてその領域の経験を積むかどうかによっていかようにも投資の能力を伸ばすことが可能であることをその友人は教えてくれている。

上記のビジョンに加えて、もう一つ見ていたビジョンの中で私は、同じ小中学校に通っていた今度は別の友人(YK)の自宅に招待され、彼の自宅にいた。彼の家は豪華なマンションであり、とても広々としていた。少しばかり二人で話をした後、彼は私に料理を振る舞ってくれると述べた。彼が冷蔵庫を開くと、そこには食料が大量に揃っており、どれも一級品の品々であった。

彼は冷凍された肉を取り出し、それを料理してくれると述べた。だが私はもう肉や魚を食べていないため、その旨を伝えると、一瞬残念そうな表情を浮かべたが、野菜料理を振る舞ってくれると述べた。それを有り難く思ったところでビジョンから覚めた。

前半のビジョンで主題となっている投資と欧州永住権という組み合わせは、以前から考えていることである。もし自分が落ち着いた生活ができると確信した街があれば、そこで不動産を購入するか、ある国に好感を抱いたのであれば、その国のどこかの街で生活することを考慮に入れて、永住権取得の基準金額を満たすような量の国債を購入しようかと考えている。不動産に関しても、それは別に投資用ではなく、居住用でも問題ないかと思うため、例えば先日訪れたリスボンのように、そこで長く生活を営んでもいいと思わせてくれるような街があれば、そこで居住用の不動産を購入するのも今後の一つの考えである。

数日前には、基本的に今後も賃貸を継続していくと述べていたが、それはあくまでもここから数年ほどの話であり、不動産によって欧州永住権を取得しようと思うのであれば、どこか一国の本当に落

ち着ける街を見つけ、そこで金額条件を満たす不動産を居住用として購入してしまうのも良いだろう。そのようなことを考えさせられるビジョンであった。フローニンゲン:2019/6/18(火)13:53

No.2085: A Smiling Flower in a Dark Place

I'll go jogging shortly for a change of pace. After coming back, I'll read a book about harmony.
Groningen, 14:47, Tuesday, 6/18/2019

4578. 四度目のフローニンゲンの夏に向かって

時刻は午前3時半を迎えた。辺りは静寂と闇に包まれており、小鳥たちの鳴き声はまだ聞こえない。今日もまた、小鳥たちよりも早く起床しての一日のスタートとなる。

起床直後の今の外気は意外と暖かく、寝室と書斎の窓を開けていてもそれほど寒くない。確かに今日は午後から少し天気が崩れ、雨が降るようだが、最高気温に関しては20度の後半に達するようなので暖かい。昨日も最高気温が24度ぐらいだったので、とても暖かく感じた一日だった。明日からは再び最高気温が20度を下回るようなので、少々肌寒くなるだろう。

ここから一週間の天気予報を眺めてみると、最高気温が20度を越したり下回ったりを繰り返すような天気となるようだ。こうした周期性を持ちながら、フローニンゲンは夏に向かっていく。

気がつけば早いもので、今回が4度目のフローニンゲンの夏となる。まさか自分が4回もの夏をこの地で過ごすことになるとは全く思っていなかったことである。

来年の夏にライデンあたりにでも引っ越そうかという計画も依然として残ってはいるが、今のところは生活環境を変える必要性をそれほど感じておらず、現在の落ち着いた環境を手放してまでも引っ越しをする必要はないのではないかと思いつけている。ひょっとすると、ライデンを含め、オランダ国内で引っ越しをするタイミングはもっと後になるかもしれない。それほどまでに私は、フローニンゲンという街の落ち着きを気に入っている。

昨日、二転三転して、この秋の日本への一時帰国の旅程を立て、航空券の予約を済ませた。ホテルに関してはまだであり、これは全く焦る必要はなく、8月に入ってから行おうと思う。今回の一時帰国では、やはり東京に滞在することを極力控える。確かに成田空港を使うという都合上、東京に滞在することはするのだが、それは移動の疲れを癒すためであり、東京で仕事をするのはしない。また人に会うこともしない。

東京でどれだけ休めるのかは定かではないが、古書店巡りや美術館鑑賞などを少々行ったら、すぐに東京を離れ、岐阜県と大阪に立ち寄るのが今回の旅程である。今回の一時帰国もそうであるが、日本へ一時帰国するというのは、完全に観光目的となった。

日本で仕事をするのは基本的にせず、また親友や家族以外の人と会うこともしない。今回の一時帰国もそのように時間を過ごそうと思っており、まだ足を運んだことのない場所に足を運び、観光を楽しみたいと思う。そして何より、久しぶりに母国でくつろぎたいと思う。

日本の中にも落ち着いた場所や癒しを得ることができる場所は無数に存在しているのであり、大都市を避けながら、そうした場所に足を運んでいくことが今後は増えてくるだろう。今のところ、もはや日本で再び生活をするという選択肢は私にはないのだが、今後も時折日本に立ち寄り、日本国内を観光したいと思う。

母国の旅についてぼんやりと思いを馳せていると、小鳥たちが鳴き声を上げ始めた。それは早朝の静謐な世界に響き渡り、遙か彼方に向かって伸びていくかのようだ。フローニンゲン:2019/6/19
(水)04:01

No.2086: A Dance of Nanja Monja

When I tried to name a piece of music, I came up with a word “nanja monja.” If my son or daughter were born and if I named him or her without deliberation as I did for this piece of music, would he or she be mad at me in the future? Groningen, 06:38, Wednesday, 6/19/2019

4579. 今年とこれからの日本旅行について

時刻が午前4時を迎えると、小鳥たちがゆっくと鳴き声を上げ始めた。これから朝祭りが始まる。それは小鳥たちの清澄な鳴き声で彩られており、心を落ち着かせてくれながらも、同時に心を躍らせてくれるような祭りである。その祭りの中に没入しながらにしてそれを楽しみ、同時に自分の取り組みに没入していきたいと思う。

ここから夕食までの時間は、兎にも角にも自分のライフワークに打ち込んでいく。昨日は諸々の事情により、航空券の予約に時間がかかっていた。日本に一時帰国するのはまだ三ヶ月以上先のことであるため、目星のフライトの空きは十分あるだろうと高を括っていたところ、希望の搭乗クラスに関しては満席であり、さらにはキャンセル待ちの状態であった。今回や止むを得ず搭乗クラスを一つ落とすことにした。

これは本当に泣く泣くの判断だったのだが、そうでもしなければ、計画した通りの旅を遂行することができなくなっていただろう。もちろん、今回の旅の計画は柔軟に変更できるのだが、前後何日を調べてみても、フライトには空きがないような状態だったので仕方ない。一応コールセンターにも問い合わせしてみたところ、やはりその時期は少しばかり混雑することだった。いつものようにJALを活用し、今回もまたヘルシンキ経由で日本に戻る予定なのだが、ロンドン路線やパリ路線に比べて、ヘルシンキ路線は比較的席を確保しやすいのではないかと思っていたことが甘かったようだ。

確かに二年前の年末年始に日本に一時帰国した際には、今回の旅のように三ヶ月前ではなく、半年ほど前から航空券の予約をしていたように思う。その時はすでに半年前に旅程が明確だったため、速やかに航空券を予約しようと思い、実際にそれは可能であった。

将来私は、日本全国を旅して回りたいと考えているが、それを実現させるのは今から数年後か10年以上も後のことであるような気がしており、現在は日本に足を運ぶ必要性をそれほど感じていない。何よりも、母国に足を運ぶ以上に、この世界には足を運んでみたい場所がまだまだ無数に存在しているため、日本全国を旅するという計画はもう少し先に実行されることになるだろう。とはいえ、今年と来年は日本に帰る必要がある。来年は、自動車の免許書を更新するために一時帰国する必要がある。

正直なところ、今後も私は車を所持したり、車に乗ることを一切考えていないのだが、一応免許の更新はしておこうと思う。代理人に更新手続きを行ってもらうことはできないらしいので、これはやむをえない。今後は少なくとも五年に一度は日本に戻る必要があるが、欧州での永住権を取得することができたら、日本の自動車免許はもはや必要ではないと判断するかもしれない。とりあえず来年は免許証を更新し、今後についてはまた考え直そうと思う。

辺りがうっすらと明るくなってきた。完全に日が昇るにはまだ時間がかかるが、空が少しずつダークブルーに変わりつつある。

今日は午前10より、協働プロジェクトに関するオンラインミーティングがあり、そこを境目として夜まで小雨が降るようなので、早朝の作曲実践に思う存分打ち込んだら、ミーティングの前に近所の河川敷にジョギングをしに出かけたいと思う。今日もまた充実した一日になるだろう。フローニンゲン：

2019/6/19(水)04:22

No.2087: On a Graceful and Profound Morning

This morning is also graceful and profound. Groningen, 07:45, Wednesday, 6/19/2019

4580. 人間本質及び現代社会に関する理解を深めるための投資・金融

早朝の小鳥たちの鳴き声にぼんやりと耳を傾けていた。気がつけば起床してからもう一時間半が経ち、時刻は午前4時半を迎えた。

そういえば今朝は、印象に残る夢を見なかった。かすかに感覚として残っているのは、黄色い喜びの感情が自分の内側に流れていたことである。また、自分の筋肉が活性化されるようなポーズを夢の中の自分が取っていたことをわずかばかり覚えている。そのようなぼんやりとした夢を見ながらも、起床時の心身の状態はすこぶる良く、今の私にとっては3時前後に起床することが最も望ましいようだ。

今日もまた日記の執筆と作曲実践を中心とした一日が形成されていく。それに並行して、昨日届いた二冊の書籍のうちの一冊を今日は読み進めていきたい。昨日ドイツから届けられたこれら二冊の書籍は、どちらも共にプライベートバンクに関するものである。一冊目の“*How to Choose a Private*

Bank (2014)”という書籍は、プライベートバンクの探し方や付き合い方を含めた非常に実践的な書籍であり、こちらは一般書に分類され、読み進めやすい。一方でもう一冊の“Private Banking in Europe: Rise, Retreat, and Resurgence (2015)”は、さすがオックスフォード大学出版から出版されているだけあって、非常に学術的である。こちらの書籍は完全に自分の学術的な興味に喚起されて購入したものだ。

せっかく欧州の地で生活をしているため、地の利を活かして、欧州のプライベートバンクを今後利用してみることを選択肢に入れていたこともあり、そもそも欧州のプライベートバンクは歴史的にどのような変遷を辿っているのかを知りたくなったのである。そうした思いにまさに合致したのが本書だと言える。

欧州のプライベートバンク及びプライベートバンキングサービスがどのように誕生し、衰退し、そしてそこからいかに再起して今に至るのかを解説している本書は非常に読み応えがあるため、これから何日かかけてまずは一読してみようと思う。

プライベートバンクを利用するという実践的な知を得るのであれば、最初の書籍は優れている。だが、プライベートバンクの活用も作曲実践と同じで、使ってみなければ実際のところはよくわからないものである。机に向かってプライベートバンクに関するお勉強だけをしていては、その本質は決して見えてこない。

日本で学部教育を受けていた頃には、確かに金融や会計、そして経済について勉強をしていたが、銀行業に関するクラスを履修したことはなかったように思う。また、銀行で働いたこともないので、商業銀行や投資銀行、さらにはプライベートバンクについては、その内実についてはよくわかっていない。少なくともプライベートバンクに関しては、それを実際に利用することを通じて、人間が産み出したこの特殊な金融システムについて少しずつ理解を深めていこうと思う。

上記の二冊に加えて、到着を待っているのは、“How to Invest in Hedge Funds: An Investment Professional’s Guide (2006)”と“Capital Without Borders: Wealth Managers and the One Percent (2016)”である。前者はどちらかというと、冒頭で紹介したプライベートバンクの利用に関する実践的

な書籍と同じようなテイストだと思われる。一方で後者の書籍は、これまた冒頭で言及した二冊目の書籍と同じように、「学術的な観点からウェルスマネジメント」の闇を解説している。

ここからしばらくは、投資や金融という観点から現代社会を見つめていくことになりそうだ。繰り返しになるが、作曲実践で自分が心がけているように、とにかく実際に投資を行い、ヘッジファンドやプライベートバンクと実際に関わることによって、投資と金融の世界に関する理解を少しずつ深めていき、同時に現代社会の金融システムとそれを取り巻く思想、ひいては投資と金融を生み出した人間本質についての理解を深めていきたいと思う。フローニンゲン:2019/6/19(水)04:49

No.2088: Shared Joy

We have an infinite number of things that we should share with each other. One of them is joy.

Groningen, 08:57, Wednesday, 6/19/2019